

令和 5 年度

第 2 回滝川市地域包括支援センター運営協議会

(書面会議)

次 第

1. 議 事

- (1) 令和 5 年度第 2 回滝川市地域包括支援センター運営協議会
報告内容要旨 (P 1)
- (2) 令和 5 年 4 月～9 月滝川市地域包括支援センター
活動報告について (P 2～P 7)
- (3) 令和 4 年度高齢者実態調査結果報告について (P 8～P 9)
- (4) 令和 5 年 4 月～9 月認知症初期集中支援チーム
活動報告について (P 10～P 11)

令和5年度 第2回 滝川市地域包括支援センター運営協議会 報告内容要旨

令和5年4月～9月 滝川市地域包括支援センター活動報告について

- ・新型コロナウイルス感染症感染者は時折出ているが、感染対策を講じた上で訪問や教室などを行い、ほぼコロナ禍前に近い状態で事業実施しているが、研修会や会議などは、引き続きオンラインで開催しているものもある。ただ、天候（夏の酷暑、暴風雨）により、認知症事業と家族介護支援事業で一部中止となったものがある。
- ・総合相談では、暫定サービス調整事例、住宅改修事例件数が多い印象があった。終末期の事例で、病状が安定している間にサービスを整えて退院する事例が目立った。
- ・認知症関連事業では、犬の散歩の際に、認知症高齢者を見守る「わんわんパトロール」を開始し、登録者にキーホルダーを配布、散歩の際に気になる人を見つけた際の連絡をお願いしている。現時点で行方不明高齢者の発見には至らないが、これまで事業に参加したことのない層の方に認知症を周知する機会となっている。また、9月の認知症月間イベントを、会場や内容を変更して、多世代向け普及啓発イベント「おれんじフェスタ」として開催、学生、子育て世代から高齢者、国際交流推進員、認知症ご本人など、幅広い人達の参加となった。
- ・生活支援体制整備事業では、認知症事業や高齢者の通いの場とボランティア活動を希望する学生をつなぐ「担い手リンク事業 チアフル」を開始。認知症の人や高齢者の活動を若い学生がサポートすることで活気があふれ、相乗効果をもたらしている。また、認知症多世代イベント「おれんじフェスタ」のコーナーを企画する「ケアLabo」を市内高校生と滝川市立高等看護学院学生対象に開催、認知症への理解を深めながら仲間と協力して目的を達成する機会となった。4月には西地区の第2層協議体を立ち上げ、現在メンバー間で情報共有を進めている。

令和4年度 高齢者実態調査結果報告について

- ・別紙資料 ○まとめ 参照

令和5年4月～9月 認知症初期集中支援チーム活動報告について

- ・検討事例のない月は会議を休止、計5回の会議を開催し、事例検討と対応を行った。
- ・今回は、夫婦世帯で2人とも対象となった場合があり、検討事例数が5回で7事例となっている。どちらかの事例の相談で訪問しても、話を聞く中で2人とも認知機能の低下があり、双方に支援が必要となる事例が2件あり、今後このようなケースが増えていくものと思われる。
- ・サービス利用につながった場合、継続支援終了としているが、随時担当ケアマネージャーと情報共有しながら後方支援を行った。認知症事例の場合、頻回の訪問や受診介助の対応が可能な、小規模多機能型居宅介護の利用は有効である。
- ・受診予約、受診同行、服薬確認、認知症状悪化時は入院の調整など、1つの事例に対しての継続支援に時間と手間がかかるようになっている。
- ・受入れが難しい事例も、時間をかけて、信頼関係を築き、必要なサービスへつながるよう心がけて対応し、問題解決へつなげている。

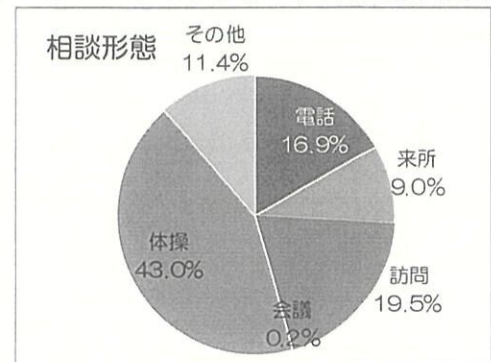
令和5年4月～9月滝川市地域包括支援センター活動報告

1. 総合相談支援

高齢者が住み慣れた地域で、安心して生活を継続できるよう介護サービスにとどまらない、保健医療福祉の機関又は制度の利用につなげる等の総合的な支援を行った。

(1) 相談件数 (単位：件)

5年度 前期	1,005
4年度 前期	944



(2) 相談形態 (単位：件)

	電話	来所	訪問	会議	その他	合計
5年度 前期	298	159	344	3	201	1,005
4年度 前期	324	145	300	0	175	944

(3) 相談者区分 (単位：件)

	本人	家族	民生 委員等	地域 団体	医療 機関	警察	実態 把握	その他	合計
5年度 前期	120	189	28	101	75	15	455	22	1,005
4年度 前期	154	171	24	117	53	21	364	40	944

(4) 相談内容区分 (重複あり) (単位：件)

	介護日常 生活相談	医療に関 する相談	権利擁護 相談	実態把握	苦情相談	SOS 関連	その他	合計
5年度 前期	532	67	21	453	1	0	76	1,150
4年度 前期	559	65	17	361	1	1	95	1,099

(5) 対応内容区分 (重複あり) (単位：件)

	相談・ 情報提供	ケース 会議	連絡調整	家庭訪問	申請代行	SOS 関連	調査訪問	その他	合計
5年度 前期	811	4	562	293	48	1	413	94	2,226
4年度 前期	741	6	646	319	38	1	218	261	2,230

2. 介護予防ケアマネジメント事業

要支援1・2の認定者、総合事業対象者がより自立した生活を送れるために、適切な介護予防サービス等が提供されるよう、予防サービス計画を作成した。

(1) 担当総件数（単位：件）

	包括	委託	合計
5年度前期	3,308	258	3,566
4年度前期	3,223	255	3,478



(2) 予防計画作成実績（単位：件）

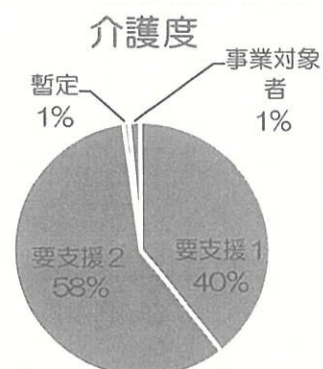
	介護予防支援			総合事業			合計
	包括	委託	計	包括	委託	計	
5年度前期	1,877	131	2,008	1,236	95	1,331	3,339
4年度前期	1,724	147	1,871	1,267	79	1,346	3,217

令和5年度指定介護予防支援・介護予防ケアマネジメントに係るケアプラン作成委託業務事業所（令和5年9月末現在）

- ・有限会社 ケア・コラボレートK・H
- ・医療法人社団 新緑会 文屋内科消化器科医院
- ・医療法人 翔陽会 滝川脳神経外科病院
- ・社会福祉法人 滝川市社会福祉事業団
- ・医療法人 シーザース・メディ・ケア
- ・社会福祉法人 滝川市社会福祉協議会
- ・社会福祉法人 すばる（江別市）
- ・特定非営利活動法人 縁（釧路市）

(3) 介護度（単位：人）

	要支援1	要支援2	暫定	事業対象者	合計
5年度前期	1,404	2,079	26	51	3,560
4年度前期	1,447	1,937	40	54	3,478



(4) 担当者会議開催数（単位：回）

5年度前期	381
4年度前期	360

3. 一般介護予防事業

ますますげんき教室

介護予防チェックリストにより、外出の機会が少なくなり、運動機能などが低下している虚弱高齢者を対象として週1回、血圧測定・健康チェック・百歳体操・ミニ講座（栄養・歯科・転倒防止など）を実施した。感染予防のため中止していた茶話会の菓子類提供を5月より再開し、実施時間も通常どおりで実施している。

ますますげんき教室参加者数(単位：回・人・人)

	開催回数	実人数	延人数
5年度前期	42	28	420
4年度前期	38	26	408

4. 包括的・継続的マネジメント事業

地域の介護支援専門員の指導や支援のほか、高齢者が住みやすい地域にするため、関係機関とのネットワークづくりを行った。

(1) ケアマネジャーの相談窓口

相談件数（単位：件）

5年度前期	3
4年度前期	8

困難事例の相談を受け、対応を検討した。

(2) 関係機関ネットワーク会議

- ・在宅・施設・医療等の関係機関に呼びかけ、相談員・介護支援専門員が参加。偶数月の水曜日に定例で情報交換・事例検討を行う他、関係者向け情報提供、事業所間の情報交換を実施した。（すべてオンライン会議で開催した。）

(3) 地域ケア会議

- ・自立支援型ケア会議（自立支援サポート会議）を開催し、地域の多様な専門職の助言により、幅広い視点から、その人らしい普通の生活を営めるような具体的な支援を検討した。（5回 10事例）

(4) 在宅医療・介護連携推進事業

- ・在宅医療と介護の連携に関する地域の課題を抽出し、その対応策を検討することを目的に、市内の医療、介護に関する関係者が集まる推進会議を開催。事例検討を通じて、課題の共通認識を図り、課題解決へ向けての対策に取り組む。（会議は年1回を予定し、前期実施はなし。）

(5) 生活支援体制整備事業

- ・高齢者が増加する中、多様な生活支援・介護予防サービスを利用できるような地域づくりを目指し、生活支援コーディネーターが生活支援体制整備事業の基盤づくりとして、他地域のコーディネーターとの情報交換やオンライン研修会へ参加、認知症地域支援推進員・介護予防係とともに、認知症カフェ、介護者サロン、百歳体操へ出向き、地域住民とのやり取りを通じて情報収集を行った。
- ・江部乙地区第2層協議体では、住み慣れた地域で安心して暮らすことを目的に介護予防を学ぶ「健康セミナー」や「乙な集い」を開催した。（健康セミナー65人 乙な集い 76人）
- ・高齢者が通う通いの場や認知症事業と、ボランティア参加を希望する学生をつなぐ「学生ボランティア『チアフル』」を行った。

生活支援コーディネーター活動状況

	生活支援体制整備事業							認知症総合支援事業		合計
	1・2層 協議体	3層通 いの場 情報共 有ほか	地域相 談・情報 共有	他市町 村・庁舎 内など 情報共 有	学生ボ ランテ ィア・高 看連携 事業	会議・研 修	情報発 信	事業・会 議・研修 ほか	情報発 信	
5年度 前期	15	30	7	4	32	41	17	98	22	236

※生活支援コーディネーターがチームオレンジコーディネーターを兼ねて活動している。

5. 認知症対策関連事業

(1) 物忘れ相談プログラムによる認知症チェック

- ・物忘れ相談プログラムを活用し、物忘れの自己チェックや認知症に関する知識の普及啓発を図る。
- ・来所と訪問による個別対応で実施した。

物忘れ相談プログラム実施数

令和5年度前期 訪問相談 17人 来所相談 14人

令和4年度前期 訪問相談 12人 来所相談 20人

(2) 認知症カフェの開催

- ・認知症の人やその家族、地域住民、専門職が、気軽に集まり認知症や介護について意見交換できる「認知症カフェ」を市内のグループホーム、ボランティア団体、家族会の協力で開設。

認知症カフェ参加数（単位：回・人）

	カフェ あけぼの		駅カフェ		出張カフェ陽 だまり		合計	
	回数	人数	回 数	人数	回数	人数	回数	人数
5年度 前期	8	201	8	428	8	87	24	716
4年度 前期	10	124	12	421	—	—	22	545

介護事業所主催のカフェは休止中。

(3) 認知症啓発月間活動

- ・認知症普及啓発イベント「オレンジフェスタ」を実施した。

9月2日 三世代交流センター 参加人数 379人

①認知症総合事業パネル展（包括）

②認知症パンフ配付・認知症クイズ（包括）

③MSP 物忘れ相談プログラム（包括）

④わんわんパトロール受付（包括）

⑤介護ロボット体験会（マルベリー）

⑥カフェ（NPO 法人風汐 トータルサポートリアル）

⑦パン販売（手作りサークルこんぺいとう）

⑧こども縁日（手作りサークルこんぺいとう）

⑨キッズ休憩室

⑩手作りマーケット（老人クラブ連合会）

⑪多世代が楽しめるイベント（認知症普及啓発イベントボランティアケア Labo）

⑫各種講座（ペン習字、巾着袋講座、世界の料理教室、タオルくま講座）

⑬お昼の音楽タイム（ウクレレ、オカリナ）（健康づくり課、リブラーン）

⑭PHOTO スポット（滝川西高美術部）

認知症の理解と予防についての講演会を実施した。

実施日	テーマ・講師	参加者
9月18日	北海道医療大学・滝川市包括連携事業「若年性認知症研修会」 テーマ：「若年性認知症～主として軽度認知障害、認知症初期の症状と治療について」 講 師：資生会 臨床精神医学研究所所長(前 北海道医療大学心理科学部臨床心理学科 教授) 中野 倫仁 氏	36人

- ・看護学生と看護・介護に興味のある高校生を対象に認知症普及啓発イベントボランティア「ケアLabo」を募集し、多世代への認知症の理解と普及啓発活動を行った。
参加学生12名（滝川西高生8名、滝川市立高等看護学院生4名） 実施回数 3回

(4) 認知症サポーター養成講座

- ・認知症について、研修を修了したキャラバン・メイトが、認知症についての理解と地域での見守り支援の普及啓発の為、認知症サポーター養成講座を各種団体の依頼に応じ実施。（今年度前期で2回開催、計25人参加）

(5) オレンジ倶楽部

- ・認知症サポーター養成講座を受講した方の中で、継続して情報収集を希望される方を募り「おれんじ通信」を発行し、認知症の知識や認知症に関する活動を紹介した。（「おれんじ通信」の発行（7月））

(6) チームオレンジ

- ・認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座を受講し、活動への参加を希望された方を対象に、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目指して、認知症ご本人やご家族と一緒に考え楽しむ活動を令和3年度から開始。活動には専門職（保健師・社会福祉士など）も参加。（「チームオレンジ便り」の発行（4～9月 月1回発行））

(7) 認知症本人の会「すまいる」

- ・若年認知症の方と高齢者の軽度認知症の方を対象とした、認知症本人の会を開催した。
- ・物忘れが心配な方同士で自らの体験や希望などを話し合い、今後の生活に役立てていく場としている。
- ・本人だからこそその気づきや意思を共有し本人のやりたいことの実現のため、チームオレンジがパートナーになる。
- ・「すまいるゴー」を実施し、丸加高原散策・森林浴を行った。参加者27名（本人5名、家族1名、ボランティア9名 職員12名）

(8) コミュニティ農園畑楽^{はたらく}

- ・介護サービスにつながっていない若年性認知症の方と高齢者の軽度認知症の方とご家族を対象とした、コミュニティ農園を実施した。学生や就労しているボランティアが参加しやすいように土曜日開催とした。

コミュニティ農園畑楽 実施状況（単位：人）

	本人	家族	ボランティア	学生・教員	職員	計	内容
第1回	5	2	13	11	12	43	苗植え 畝づくり 添え木等
第2回	5	2	15	-	6	28	間引き 菊芋茶摘み
第3回	5	2	12	6	6	31	野菜収穫 草取り
第4回	3	0	20	4	6	33	野菜収穫
第5回	4	1	23	2	6	36	野菜収穫

(9) 滝川市見守りキーホルダー

- ・認知症によって行方不明となるおそれのある高齢者などの安全を確保し、ご家族や介護する方の負担を軽減することを目的に「見守りキーホルダー」の配布を行った。（令和5年度 配布数8個）

(10) 滝川市わんわんパトロール

- ・犬の散歩をしながら認知症高齢者を見守り、行方不明者の早期発見につなげる「わんわんパトロール事業」を開始し、登録者にはわんわんキーホルダーを渡し、散歩時持ち歩いてもらう。
(登録者 20 人)

6. その他の事業

(1) 家族介護者の支援

介護者サロン

家庭で認知症等の介護を行う介護者に対し、介護に関する知識の提供及び介護者同士の交流を通し、心身のリフレッシュ・介護者の疲れの軽減・介護者の悩みの軽減を図ることを目的に開催。介護者とは別室で被介護者を預かる託老も行い、介護者が参加しやすい体制づくりに努めている。

介護者サロン実績（単位：人）

	介護者	被介護者	オレンジ 倶楽部	内容
第1回	15	2	12	交流会・グループワーク (日頃の介護の悩み、困っていること)
第2回	—	—	—	悪天候により中止
第3回	16	2	9	音楽療法
計	31	4	21	

(2) 成年後見制度の申立て支援

市長申立てに関する相談は2件。2件は市長申立てを行った。

(3) SOSネットワークシステム

徘徊による行方不明者を速やかに搜索・発見するためのネットワークの構築。

現在の登録実人数は116人。うち、今年度前期新規登録者は10人 搜索依頼1件、無事発見。

(4) 滝川市はいかい高齢者等位置探索システム助成事業

今年度前期における新規申請なし。

(5) 高齢者虐待の相談支援 1件

警察からの連絡で現状を確認し、関係機関で共有し対応した。

(6) 出前講座

市民や関係機関の依頼に応じて、高齢者福祉・介護予防等に関する講座を実施。

今年度前期における実施はなし。

(7) 地域リハビリテーション活動支援事業

作業療法士、栄養士、歯科衛生士が介護予防の取組を総合的に支援するために、訪問・事例検討会等へ出席した。

令和4年度 高齢者実態調査 結果報告

令和4年4月現在での75歳以上総人数
令和4年度調査実施地区の75歳以上総人数
《調査実施地区》

7376人

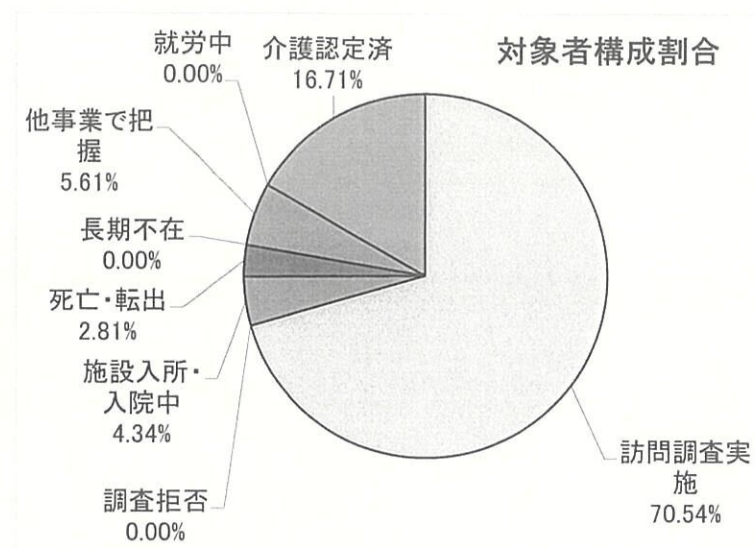
784人

南滝の川町、北滝の川町、滝の川町

・世帯構成に関係なく、令和4年4月1日現在満75歳以上の人を対象に訪問調査を実施。
介護サービス利用や入院・施設入所が明らかな場合は訪問せず。

	人数	世帯数	内訳		
			単身世帯	夫婦世帯	その他
総数	784	442	142	119	99
調査対象地区	南滝の川町、北滝の川町、滝の川町				

○対象者構成割合

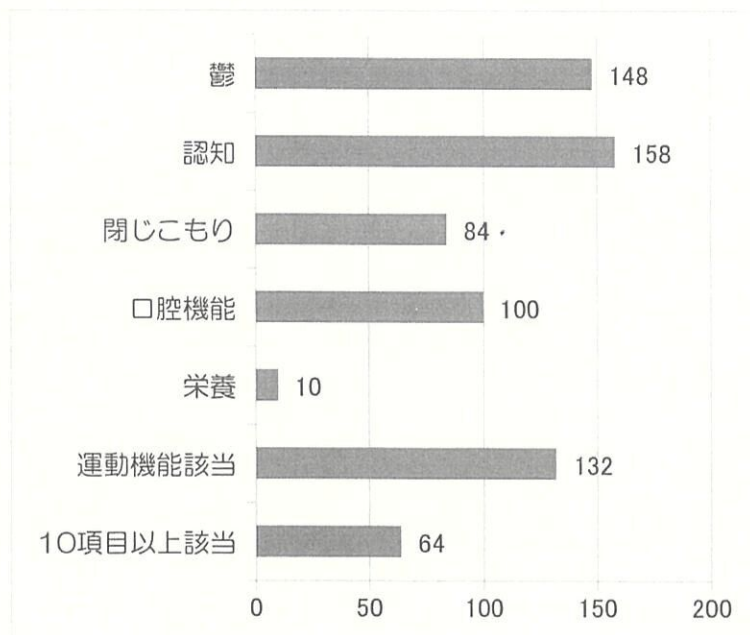


内訳	人数
訪問調査実施	553
調査拒否	0
施設入所・入院中	34
死亡・転出	22
長期不在	0
他事業で把握	44
就労中	0
介護認定済	131
総計	784

○二次予防事業対象者内訳

実数 283人

(調査実施者数の51.1%)



内訳(重複あり)	人数
10項目以上該当	64
運動機能該当	132
栄養	10
口腔機能	100
閉じこもり	84
認知	158
鬱	148

認知機能該当者が高い。

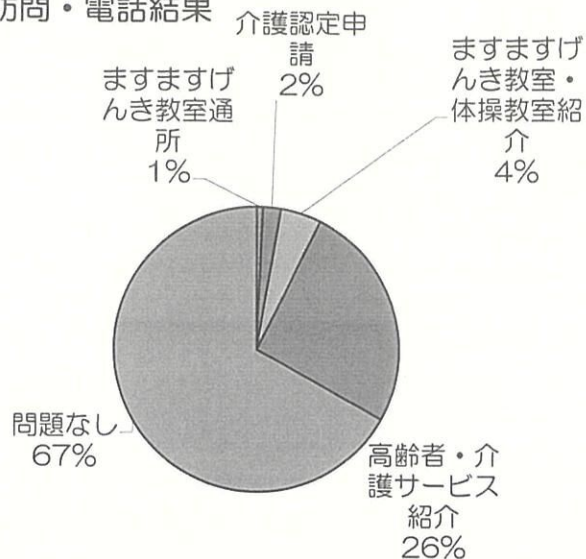
○二次予防事業対象者の発見率

	調査実施数(人)	二次予防事業対象者(人)	発見割合
実態調査	532	283	53.2%

○二次訪問・電話

二次予防事業対象者のうち、介護予防事業(ますますげんき教室・地域体操教室)通所の必要性がある人、介護・高齢者サービスの利用希望者、調査員が気になったケース141人に対し、地域包括支援センター保健師・社会福祉士、介護予防係看護師が訪問・電話かけを実施。

二次訪問・電話結果



内訳	人数
訪問	40
電話	101
計	141

結果	人数
ますますげんき教室	1
介護認定申請	3
ますますげんき教室・体操教室紹介	7
高齢者・介護サービス紹介	39
問題なし	101
計	151

○まとめ

令和2年度の調査より、感染予防対策のため事前に封詰めした調査票を対象者宅に投函、ご本人に記入してもらい、後日玄関先で回収する方法で調査。事前の調査票配布により、効率のよい聞き取り調査につながっている。気になる対象者には訪問や電話確認により状況把握を行った。

年度途中の調査員退職に伴い、調査が一時的に滞ったため調査数が目標を下回った。

調査訪問時に地域包括支援センターパンフレットを配布し相談窓口の紹介をしており、パンフレットを通じて後日、家族から相談を受けることもあり、介護認定申請や必要時関係機関への相談につながっている。

今後も、他部署との連携、見守り安心ネットワーク協力団体との協力による緩やかな見守り体制の充実を図りながら、より一層の早期発見・対応と相談窓口の周知を続けていく。

令和5年4月～令和4年9月 認知症初期集中支援チーム活動報告

1. チーム員会議の開催

会議実施数（単位：回・件）

	回数	検討事例数
令和5年度前期	5	7
令和4年度前期	6	6

事例の状況

	年齢	性別	世帯構成	相談者	支援経過
4月	87歳	女性	同居(次男)	長男の妻(市外在住)	精神科神経科受診しアルツハイマー型認知症と診断。内服開始。生活能力は維持。要介護認定受け、通所介護の体験利用を行ったが、本人の意向で継続利用には至らず。地域活動（サロンや百歳体操など）の利用を勧奨。地域の協力あり、家族含めて見守り支援を継続中。
6月	87歳	男性	夫婦世帯	長男(市内在住)	市内徘徊にて警察対応歴あり。認知症と診断。要介護認定受け、ケアマネ・通所介護の介入に繋がった。その後、本人の認知症の進行と妻の体調不良(介護力の低下)により、施設入所を予定している。
7月	83歳 84歳	女性 男性	夫婦世帯	地域包括支援センター	来所相談時に夫婦とも認知機能低下が疑われる状況があり支援開始。チーム員の訪問と認知症地域支援事業への参加を続け、支援介入に慣れてきた様子あり。家族と相談し、小規模多機能の利用開始。
8月	87歳	女性	同居(孫)	孫(同居)	障害福祉サービス(就労支援)利用中の孫から祖母の物忘れ対応が負担だと相談あり支援開始。精神神経科受診し、軽度アルツハイマー型認知症と診断。本人から体調不安や服薬管理について相談あり。要介護認定受け、ケアマネ・訪問看護の利用開始。認知症地域支援事業への参加も勧奨。
9月	90歳 94歳	女性 男性	夫婦世帯	長女(市外在住)	長女から両親が喧嘩をして負傷したと相談あり。妻は認知症の診断あり内服中。夫婦とも高齢で、認知機能低下がみられた。介護認定受け、小規模多機能の利用を検討。家族が施設見学を実施。現在、利用を希望している事業所の利用定員が空くまで待機中。

医療受診について(単位：件)

既に受診済	1
認知症と診断	3
現在の受診科で経観	3

支援結果(単位：件)

支援終了	5
継続支援	2

継続支援状況

検討後の事例について、家族やケアマネージャー等と連絡調整しながら、訪問・受診同行等の支援を行っている。

実件数 3 件、延件数 28 件

2. 普及・啓発活動

リーフレットを作成し、介護福祉課の窓口を設置。

地域包括支援センターのパンフレットの中に「認知症の方と家族を支える取組」の1つとして掲載。

パンフレットは市内医療機関、高齢者実態調査の訪問時に配布。